芋川砂防フィールドミュージアム

山古志地域周辺では、人々が自然とともに生きるくらしの中で棚田の風景、錦鯉、重要無形文化財の闘牛などを育んできました。

新潟県中越地震で地盤が突き崩され、芋川流域では大きな土砂ダムが生じて集落水没や決壊洪水の危機などを経験しましたが、多くの人の想いと土木技術によって乗り越えてきました。今も国道等から変わった形の砂防施設を間近に見ることができます。

当地では、独特の歴史文化、風景、災害体験、砂防施設、地域の復興過程など、すべてが来訪者や新しい世代にとって学びの対象になります。そして、地域がまるごと「自然とくらしの博物館」です。

「山古志地域の見どころ」

●棚田

緩やかな斜面を選んでつくられた棚田は、人々が地すべりと共生してきた地域独特の風景です。

四季折々の表情を見せる棚田を撮影するため、毎年多くの写真愛好家が訪れています。

●錦鯉

山古志地域は年間を通して水を得やすい地域ではないため、横井戸を掘って引いた湧き水や天水をため池に集めて利用しています。田植えが終わってから真鯉の稚魚を放しておくと、秋の刈り入れが終わるころには、冬のご馳走になりました。この鯉が突然変異をおこしたのが錦鯉の始まりと言われ、改良を重ねて美しい錦鯉になりました。

●牛の角突き

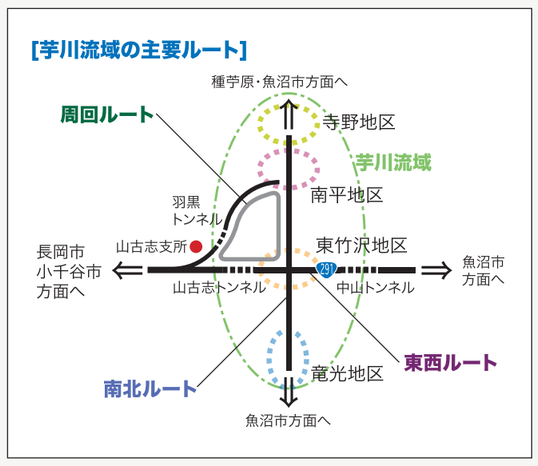
江戸時代から行われていた闘牛で国の重要無形民俗文化財に指定されています。山古志には南平・種苧原・虫亀の3ヶ所に闘牛場があり、5月～11月まで闘牛が開かれます。

牛は山坂の多い細い道を歩くことができるため、農作業のほか小千谷縮の原料となる苧（からむし）や、繭、炭などを運ぶために飼われていました。

●中山隧道

中山隧道は魚沼市へ抜ける手掘りのトンネルです。かつて、雪に閉ざされる冬は集落が孤立し、急病人が出ても病院へ行くことができませんでした。掘削は16年を要し苦難の連続でしたが、横井戸掘りで培った技術を活かして人力で掘り抜き、新トンネルが開通するまで49年間、住民のくらしを支えました。

「芋川砂防フィールドミュージアム」のおすすめルート



目的や時間に合わせていろんなコースで芋川流域を楽しむことができます。たとえば・・・・

■広域巡りの立寄に――東西ルート

国道291号で芋川流域を東西に横断すると、棚田や養鯉池、東竹沢の土砂ダム跡地、手掘りの中山隧道などを見ることができます。

■震災メモリアル見学に――南北ルート

木籠水没集落は、東竹沢地区の地すべりによる土砂ダムの被災地として、震災メモリアルに位置づけられています。上流の寺野地区の土砂ダム、洪水氾濫が懸念された下流の竜光集落を合わせた3箇所は土砂ダム緊急対策の舞台でした。

■じっくり砂防見学に――周回ルートをプラス

さまざまなタイプの砂防えん堤と地域の歴史文化を一緒に見ることができます。

＊芋川は、魚野川に流れ込む、長さ17.2km、流域面積38.4km²の川です。

国土交通省 北陸地方整備局
湯沢砂防事務所
〒949-6102 新潟県南魚沼郡湯沢町大字神立23
電話（025）784-2263（代表）
http://www.hrr.mlit.go.jp/yuzawa/

（2012. 3v.）

芋川砂防フィールドミュージアム エリアマップ

南平散策コースのポイント

山古志闘牛場周辺では起伏に富んだ地形に合わせて見学ポイントが点在します。

①池谷バス停
②山古志闘牛場
③楢木・池谷移転地「天空の郷」
④南平砂防えん堤
⑤西願寺川砂防えん堤
⑥楢木砂防えん堤
⑦東川砂防えん堤

寺野散策コースのポイント

種苧原の集落と土砂ダムをつなぐ、往復2時間余りの徒歩コースです。

①あまやち会館（宿泊施設）
越後三山のながめが良い。
②地すべり跡地
被災した水道施設が残されている。
③災害後整えられた水路
工事用道路に橋が架かる。
④寺野橋
地すべり跡地と土砂ダム湖のながめが良い。
種苧原には闘牛場もある。

地震によって幅230m、長さ360mの地すべりが発生して芋川上流部をせき止め、流域で2番目に大きな土砂ダムを生じました。もしも決壊すると下流に大きな被害が出る恐れがありました。

寺野地区

3基の砂防えん堤が地すべりの足下をおさえています。地すべり斜面には、現地で発生した倒木などをチップ化して吹付け、有効活用しました。

東竹沢散策コースのポイント

芋川流域のほぼ中央部に当たる東竹沢地区には見学ポイントが集中しています。

①木籠集落移転地「芝桜の里」
②郷見庵
二階は手作りの資料館です。
③水没集落
現在では流れ出した土砂に家々が埋まっています。
④木籠諏訪神社
⑤冷子沢川砂防えん堤
⑥東竹沢地すべり跡地
⑦東竹沢第1号・第2号砂防えん堤
⑧旧東竹沢小学校石碑
⑨十二平砂防えん堤
⑩多聞田橋
⑪神沢川砂防えん堤
⑫下之沢床固工
⑬集水井
⑭震災の谷
崩落した旧道・雪崩防護柵、被災した車が当時のまま残されている。

震災前/東竹沢周辺

地震によって幅295m、長さ350mの地すべりが発生し、芋川で最大の土砂ダムをつくりました。上流では家屋が水没・浸水するなど、深刻な被害が発生し、決壊すると下流の魚沼市竜光地区で大きな氾濫被害が出ることが危惧されました。

東竹沢地区

2基の砂防えん堤が地すべりの足下をおさえています。地すべりという自然が引き起こす土砂移動から、砂防工事によって安全が確保されました。

「土砂ダムは今」